

コロナウイルス・熱中症対策について②

梅雨入りの季節を迎えました。先週から、気温だけでなく湿度も急激に上がり、頭痛等の熱中症症状を訴え、早退する児童がいることから、以下の対応を追加しました。児童の体力には個人差があり、健康観察の回数を増やす等の対応もしています。

- ・朝、児童登校時から全学級のエアコンを「ON」にしています。
- ・少人数A教室にエアコンが設置していない(できない)ことから、図工室(エアコンあり)に児童机・椅子を移動し、教室を変更しました(写真右)。
- ・体育・校外学習・休み時間の外遊び等は、「3密」に気を付けてマスクをはずしていません。

保護者の方へのお願いしたい追加事項は、以下の通りです。どうぞよろしくお願いします。

- ・登校時に帽子を着用させてください。
- ・エアコンに寒さを感じる場合に備え、必要に応じ、上着等の持参をお願いします。
- ・学校でお子さんの調子が良くなければ、保護者等に連絡をしますが、下校時に熱中症症状が出る可能性があります。その際、お子さんが保護者等への連絡が取れるような態勢づくり(連絡先を伝えておく等)をお願いします。
- ・休校時の生活リズムを通常時に戻すために、夜更かしをさせないようお気をつけください。また、朝食は必ず摂取してから登校させてください。
- ・朝、体調のすぐれない場合、無理せず自宅で休養をとらせてください。

このような時期だからこそ、読書の推進を！

先週、朝から高湿度のため運動場での遊びを中止した日があったり、熱中症厳重警戒レベルで体育もなかなかできなかったりとの状況ですが、実際、無理して実施できる状況ではありませんでした。

さて、今週から図書館まつりが始まりしました。図書ボランティアさんやリブネットさん、そして担任や校長の3密防止読み聞かせを行っています。そして休み時間、涼しい環境での読書を奨励しています。これからも新刊図書や学級文庫を増やす等、読書環境づくりにも努力していきます。

自分が平成30年度に着任して早々、「ゲームから読書」を繰り返し児童や保護者の皆さんに伝えてきました。たまに「学校だより・新聞スクラップ特集」(裏面)も発行してきました。それは生きる上で重要な「読解力」を身に着けるためです。以下に「小学生のための読解力をつける魔法の本棚(中島克治著)」から、ほんの一部を紹介します。基本的に、読書は「楽しむもの」です。

日常生活の中で求められる読解力

本をよく読む子は感情が豊かです。それは感情的ということではなく、感情をうまくコントロールできるという意味です。人の心の奥深くを察することができるから、相手をむやみに傷つけることもないし、トラブルも防げる。つまり「読解力」があるのです。

読解力とは、文章を読み、書いてある内容や行間にこめられた思いをくみ取る力であり、筆者という人間と向き合うこと。読解力とは、「人と向き合える力」のことなのです。

日常生活では、自分の意見や立場ばかりを主張するのではなく、相手にも十分な配慮をしなければコミュニケーションはうまくいきません。そこに、相手の気持ちをくみ取るという「読解力」が必要とされているわけです。最近の子どもたちを見ていると、人の話が聞けなかったり、コミュニケーションがうまくいかなかったりしているケースが増えているように感じられます。

学校で「問題行動」を起こすような子どもたちにも気になるところがあります。彼らに共通しているのは、「それをして(言ったら)どうなるのか」という、あたりまえの想像力がないということです。校則があろうとなかろうと、やっていいことかどうかは、校則以前の問題です。(以下略)

では、どうすれば子どもが読書をするようになるのか。実に簡単。周囲の大人が読書をするからです。

では、なぜ校長は「読み聞かせ」をすべての教室でやっているのか。実に簡単。やさしい子に育ってほしいからです。ですから図書館まつりが終わってからも、引き続き巡回する予定です。だって、四郷っ子は、とても反応がいいから張り合いがあるのです(図書ボランティアさんの皆さんも同意見)。

